

### 取組3 やす 積立金を増

- 財政調整基金………36億円
- 公共施設整備基金……10億円
- 職員退職手当基金……20億円

市には16の基金（積立金）があり、それぞれ設置目的に応じて積み立てて運用しています。

財政調整基金は、災害が発生したり景気後退で急な減収があったときのため一定額を積み立てておく基金です。この積立金は、現在の財政規模から、30億円を積立額の目標とします。将来的目標は、支出予算総額の10%にあたる36億円とします。

#### ■財政調整基金の目標値

平成21年度	平成26年度	平成32年度	将来目標
19.5億円	25億円	30億円	36億円

#### ■公共施設整備基金の目標値

平成21年度	平成26年度	平成32年度	将来目標
9億円	3億円	5億円	10億円

#### ■職員退職手当基金の目標値

平成21年度	平成26年度	平成32年度	将来目標
12億円	15億円	20億円	20億円

公共施設の建設や大規模修繕にあたる公共施設整備基金は、富丘中学校分離校の建設により大幅に減少する予定です。将来は、ほぼ現在の水準である10億円まで回復させ、公共施設の整備などにあてることを目標とします。

職員退職手当基金は、職員の退職者が毎年異なるため退職手当の支出を平準化するために設けられている基金です。この基金は、退職者の集中する年度に備え、目標額を20億円とします。

このほかの基金は、それぞれの設置目的に沿った運営ができるよう着実な増額を目指します。基金（積立金）残高の将来目標は、100億円とします。

### そのほかのさまざまな取組

公共施設の使用料金は、平成18年度に見直しを行い、現行の料金が定着しています。今後は、皆さんの負担の状況に配慮しながら景気動向を踏まえて定期的な見直しを行います。

また、遊休化している市の土地などの財産の処分を進め、借入金の返済などにあてます。

このほか、さまざまな業務の民間委託を進めるとともに、市が団

体などに支出している補助金の見直しを行い適正化するなどして経費を節減します。

### まちの発展の持続を目指して

平成16年度につくった「財政健全化対策」の効果で財政の破綻は避けることができました。

しかし、現在の経済・社会情勢では市の財政がただちに好転する環境にはありません。また、社会保障費のほか公共施設の修繕や設備更新を含めた維持補修費などの行政需要は今後も増加することが見込まれます。

千歳がこれからも安定して発展を続けるためには、財政の健全性が確保されなければなりません。このためには、10年以上先を見越した収支を踏まえて財政運営を進めることが必要です。

「財政標準化計画」は、長期的な視点で財政悪化を防ぐ重要な計画です。計画の達成に向けたさまざまな取組を進めていきます。

### ●記事の詳細●

総務部財政課

主査（財政調整担当）

☎(24) 31331 内線371

## 目標値

#### ■経常収支比率

区分	平成21年度	平成26年度	平成32年度	将来目標
経常収支比率	91.0%	89.4%	88.8%	85.0%

支出のうち人件費や公債費など毎年支出される経常的な経費に、市税などの自由に使える経常的な一般財源収入がどの程度充当されているかを示すものです。財政構造の弾力性を判断する指標で、比率が低いほど弾力性が大きいことを示します。平成20年度の北海道内市町村の平均値は92.1%、全国の各市町村などの平均値は91.8%です。

#### ■実質公債費比率

区分	平成21年度	平成26年度	平成32年度	将来目標
実質公債費比率	11.4%	11.0%	9.2%	8.0%

地方債の元利償還金が財政に及ぼす負担を表す指標です。市税などの経常的な一般財源収入のうち、借入金の返済金である公債費に水道事業などの公営企業債への繰出金などを含めた実質的な公債費に充当されたものの占める割合で、低いほど良好といえます。平成20年度の北海道内市町村の平均値は14.2%、全国市町村の平均値は11.8%です。